

## 「中三生徒への辞書指導」

筑波大学附属駒場中・高等学校

長谷川和則

# 「中三生徒への辞書指導」

筑波大学附属駒場中・高等学校 長谷川 和則

## 1. はじめに

全国の中学・高校はおろか大学においてまでも「生徒（学生）が辞書を引かなくて困っている」という教師の嘆きが聞かれる昨今である。<sup>1</sup>ではなぜ引かないのかと生徒に尋ねても、その理由は様々である。<sup>2</sup>「辞書の引き方など教えなくても使っているうちにわかってくるものだ」では、今の中・高生はついてこない。<sup>3</sup>こういった現状を抱えて教師はどういう手立てを講ずるべきか。

筆者は今年度（昭和63年度）中学3年生を教えているが、年度初めにこの子たちに辞書の使い方指導を行うことを考え実践した。本稿はその報告である。

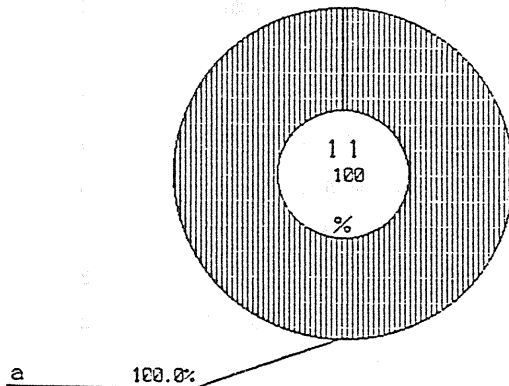
## 2. 「preアンケート」に見る生徒の実状

生徒の実状を把握するためにアンケート調査を実施した。以下にその結果を見ながら考察を加える。（調査生徒：中3，総数117名）

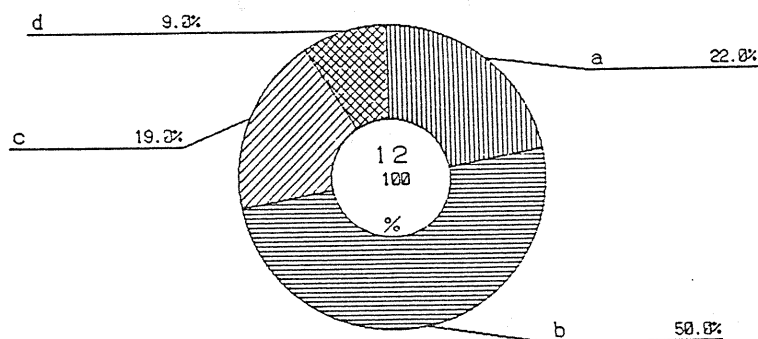
### 2. 1. 辞典の所有実態

これから数時間かけて辞書（英和辞典）の使い方を勉強していきます。辞書を効果的に使うことで英語学習がはかどり、英語力を高めることができるからです。辞書を共として自分自身で学ぶ姿勢を身につけましょう。今日は、次のアンケートに答えて下さい。

1-1 君は英和辞典を持っていますか。 a. ある b. ない



1-2 何冊持っていますか。 a. 1冊 b. 2冊 c. 3冊 d. 4冊以上



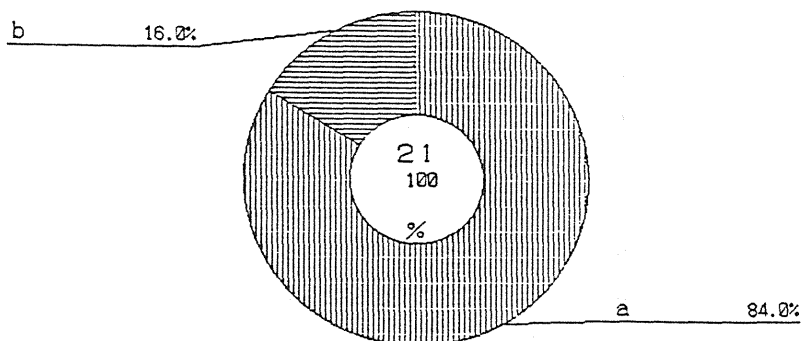
1-3 持っている英和辞典名を具体的に書いて下さい。

英和辞典名	人数
1 新英和中 (研究社)	34
2 新クラウン (三省堂)	22
3 初級クラウン (三省堂)	21
4 ライトハウス (研究社)	17
5 新コンサイズ (三省堂)	11
6 デイリーコンサイズ (三省堂)	8
7 アポロ (研究社)	7
8 シニア (旺文社)	6
9 岩波英和中 (岩波書店)	5
10 アンカー (学習研究社)	5
11 ジュニアアンカー (学習研究社)	5
12 プログレッシブ (小学館)	4
13 グローバル (三省堂)	4
14 スタディ (旺文社)	4
15 中学ニューワールド (講談社)	4
16 マイ英和 (研究社)	3
17 講談社英和 (講談社)	3
18 新英和大 (研究社)	2
19 フレンド英和 (小学館)	2

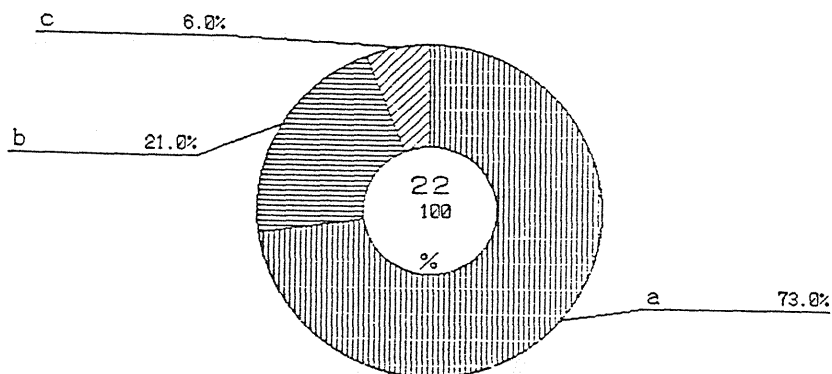
(2名以上の生徒が所有する英和辞典名)

生徒全員が英和辞典を所有し、2冊以上あると答えている生徒が全体の8割近くいる。生徒の持っている英和辞典は実に様々である。2名以上の生徒が持っている辞典名は表に示した通りだが、この他にアプローチ（研究社）、グローバル（三省堂）、新英和中（旺文社）、カレッジクラウン（三省堂）、ランダムハウス英和大（小学館）、サンライズ（旺文社）などがあがった。

2-1 君は和英辞典を持っていますか。 a. ある b. ない



2-2 何冊持っていますか。 a. 1冊 b. 2冊 c. 3冊 d. 4冊以上



2-3 持っている和英辞典名を書いて下さい。

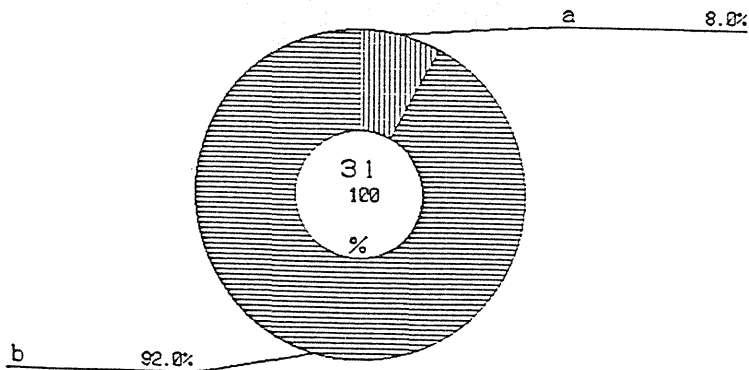
和英辞典名	人数
1 ライトハウス (研究社)	17
2 新和英中 (研究社)	14
3 新クラウン (三省堂)	11
4 新コンサイス (三省堂)	7
5 初級クラウン (三省堂)	5
6 フレンド (小学館)	4
7 プログレッシブ (小学館)	4
8 デイリーコンサイス (三省堂)	4
9 ジュニアコンサイス (三省堂)	3
10 アンカー英作文 (学習研究社)	2

(2名以上の生徒が所有する和英辞典名)

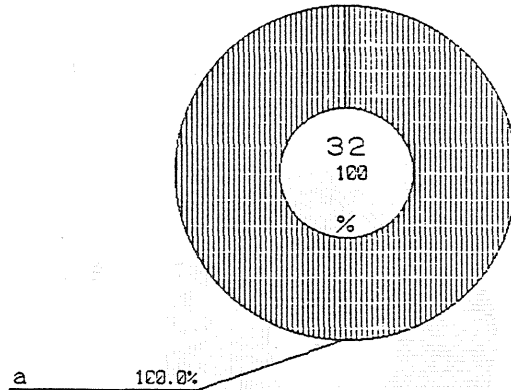
和英辞典を持たない生徒が全体の16%いることに注意したい。持っている生徒では1冊と答えている者が最も多く73%であり、英和辞典の冊数分布と対照的である。表に示した和英辞典以外で生徒が持っているものは、アポロ (研究社)、シューター (旺文社)、スタディー (旺文社)、新和英大 (研究社)、シニア (旺文社)、エッセンシャル (旺文社)、和英中 (旺文社)、ジュニアアンカー (学研)、サンライズ (旺文社) などである。

なお、生徒の中には英和・和英兼用辞典であるデイリーコンサイス英和・和英 (三省堂) [9名]、新リトル英和・和英 (研究社) [3名] を持つものがある。

3-1 君は英英辞典を持っていますか。 a. ある b. ない



3-2 何冊持っていますか。 a. 1冊 b. 2冊 c. 3冊 d. 4冊以上



3-3 持っている英英辞典名を書いて下さい。

- 1 ロングマン現代英英辞典 (LONGMAN, 桐原書店) 1名
- 2 新英英辞典 (研究社) 1名
- 3 コンサイス英英辞典 (三省堂) 1名

英英辞典は持っていない生徒が9割を越える。持っている生徒は、英語に特に強い興味・関心を持ち、学力もあるほんの数人の生徒であると思われる。

(考察)

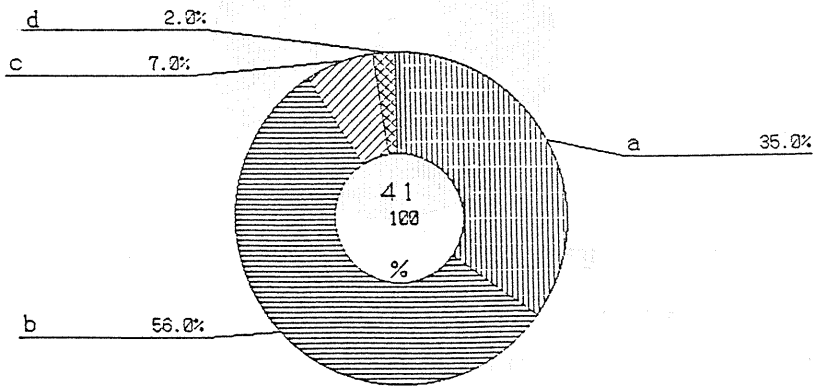
所有実態を見て気付くことは、まず、初級用の英和辞典がベスト19位中に7つも入っていることである(初級クラウン、アポロ、ジュニアアンカー、スタディ、中学ニューワールド、マイ英和、フレンド)。物持ちのよい生徒が多数いることは別として、これらの辞書は語彙が一万語前後であり、用例文も少ないものがあり心もとない気がする。<sup>4</sup>事実、こういった辞書を持つ生徒たちは指導が進む中で、自分の辞書では十分な語義の解説が得られないことに気付いていった。

次に、いわゆる携帯用の辞書を持つものが結構いるということである。生徒が常にこういった辞書しか引いていないとしたら問題である。携帯用辞書はあくまでも携帯のためのものであり、生徒に必要な学習用の辞書とは違うからである。

## 2. 2. 辞典の使用方法

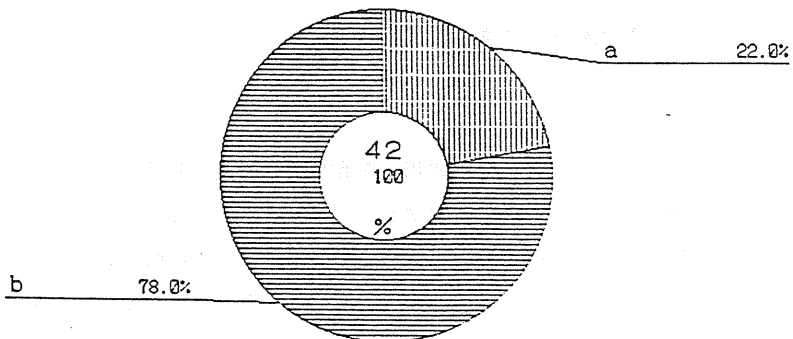
4-1 君は英和辞典の使い方を知っていますか。

a. 知ってる    b. 少しは知っている    c. あまりよく知らない    d. 知らない



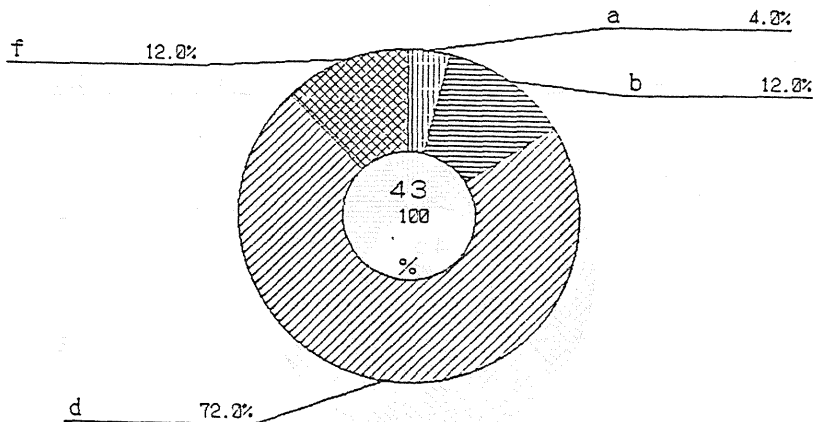
4-2 英和辞典の使い方を以前に習いましたか。

a. 習った    b. 習ってない



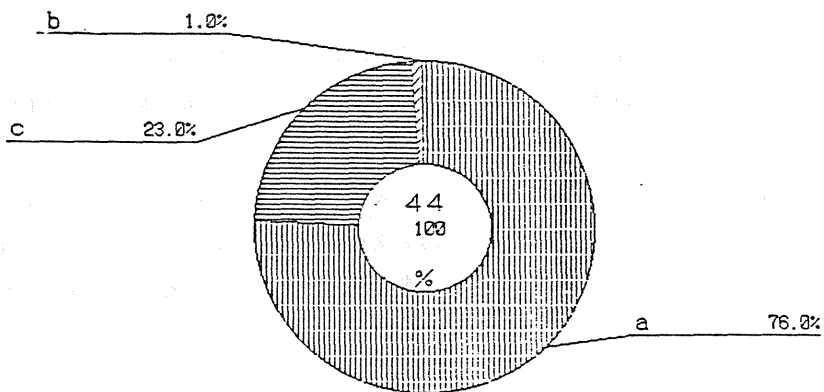
4-3 (4-2でa. と答えた人) どこで習いましたか。

- a. 学校(筑駒)で    b. 塾で    c. 家庭教師から    d. 家の人から(父母, 兄弟姉妹)  
e. テレビで    f. その他( )



4-4 英和辞典の効果的な使い方を習いたいですか。

- a. 習いたい    b. 習いたくない    c. どちらでもかまわない(やるなら習う)



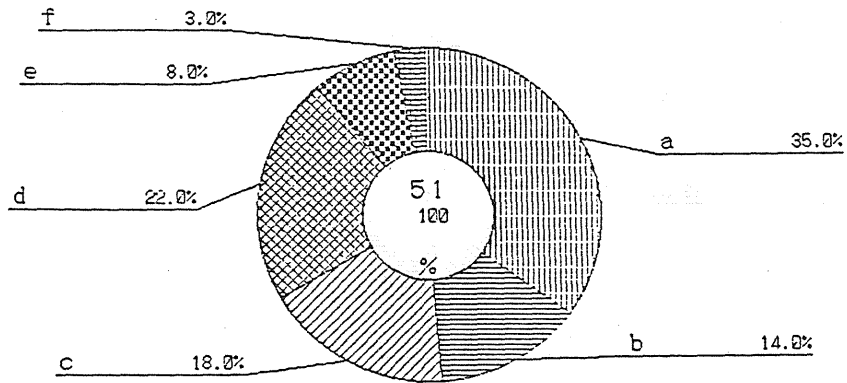




### 2. 3. 辞典の使用頻度等

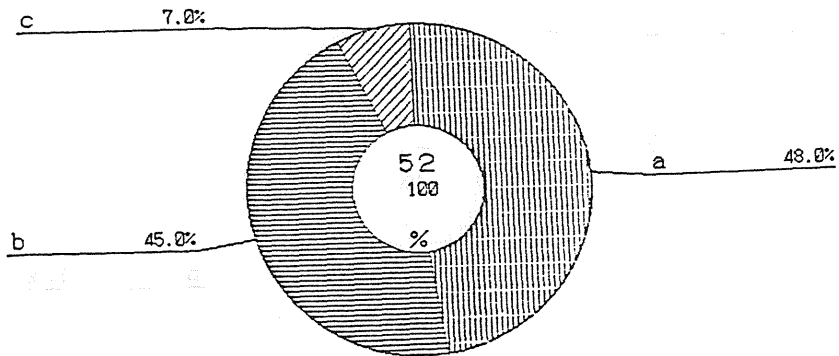
5-1 君が英和辞典を使うのはどのようなときですか。(2つ選びなさい)

- a. 予習の時    b. 授業で    c. 復習の時    d. 練習問題を解くとき    e. 塾で  
f. その他 ( )



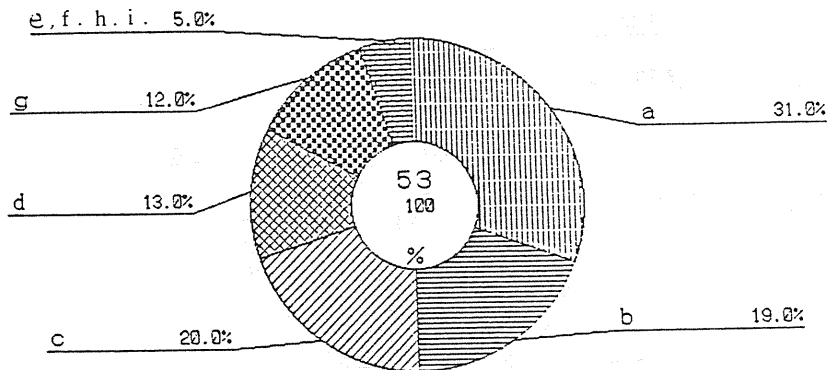
5-2 君は英和辞典をよく引きますか。

- a. 引く    b. 時々引く    c. あまり引かない    d. 引かない



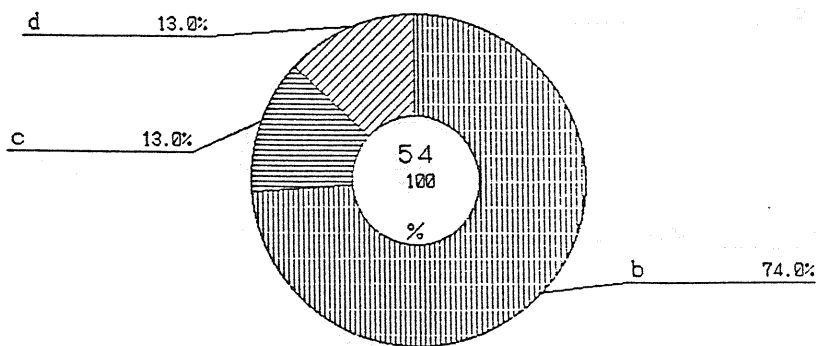
5-3 (5-2でa. もしくはb. と答えた人) 君は英和辞典をどういうふうに使っていますか。(3つ選びなさい)

- a. 単語や熟語の意味を調べる    b. 発音を調べる    c. 用例文を調べる    d. 語法を調べる    e. 反意語や同意語を調べる    f. 語源を調べる    g. 動詞の活用を調べる  
 h. 囲み記事を読む(「ことばの背景」や「日英比較」)    i. その他



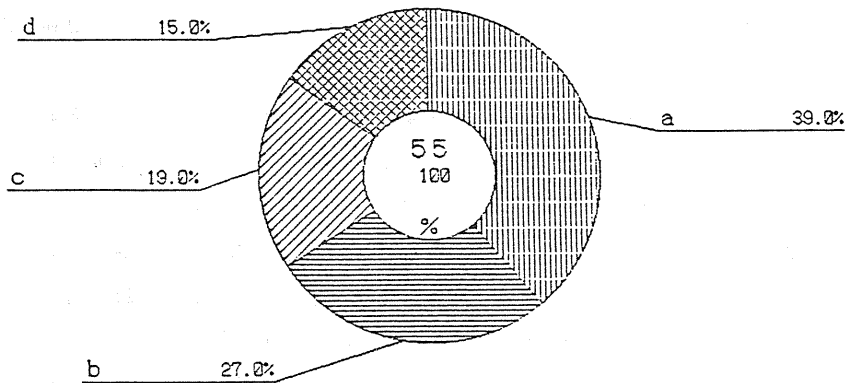
5-4 (5-2でc. もしくはd. と答えた人) どうして引かないのですか。

- a. 引き方を知らないから    b. 面倒だから    c. 引こうとしても辞書が身近にない場合が多いから  
 d. その他 ( )



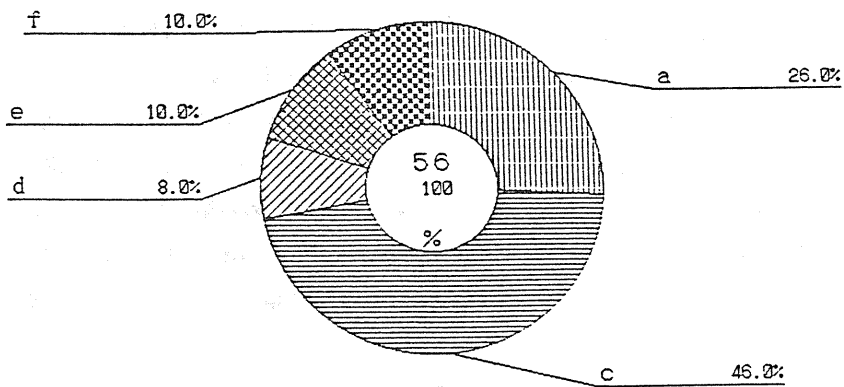
5-5 君は英語の授業があるとき英和辞典を学校に持ってきていますか。

- a. 持ってくる    b. 時々持ってくる    c. あまり持ってこない    d. 持ってこない



5-6 (5-5でc. もしくはd. と答えた人) どうして持ってこないのですか。

- a. 重いから    b. 英和辞典を持ってないから    c. 授業で使わないから  
 d. 引く時間がないから    e. 引くような難しい単語がないから  
 f. その他 ( )



(分析と考察)

英和辞典を使うのが「予習の時」であると答えた者が35%であった。各クラスできちんと予習をやっている生徒は3割位であるところから、この数字は納得のいくものである。「授業で」は14%しかいないところから、これまでの授業時に辞書がいかに使われてなかったかがわかる。授業中に辞書を引かせる場面をもち、生徒全員に引かせたいものである。

生徒は辞書を引いているようであるが(「引く」と「時々引く」で9割を越える)、はたしてどのように引いているのであろうか。意味不明の語を辞書で調べるといっても、訳語のはじめのも

のを見つけて事足れりとしている生徒が多いのではないだろうか。<sup>5</sup> 授業中に語句の意味を尋ねても答えられない生徒が結構いるところから、これほど多くの生徒が辞書をきちんと引いているとは思えないのである。アンケートの選択肢を選ぶ際「あまり引かない」か「時々引く」かで迷い、どうせ答えるなら積極的な方、つまり「時々引く」の方にしておこうという意識が働いたのかもしれない。

5-3の結果を見ると、生徒は辞書を引いて大切だと思われる記述に一応は目を通していているようである。しかし、語法欄や「ことばの背景」、「日英比較」といった囲み記事はあまり読んでない。なかにはこういった情報が辞書に載っていることさえわかってない者がいるように思える。

7割弱の生徒は辞書を学校へ持ってきている。残りの3割強の者は持ってきてないわけであるが、彼らになぜ持っていないのかと問うと、「授業で使わないから」が約半数の者の答である。授業時に生徒に辞書を使わせる必要性がここからもうかがい知れよう。また「重いから」と答えている者が3割弱いるが、ものぐさというか、面倒くさいことを嫌う生徒の一面が見られる。

### 3. 辞書指導の実際

アンケートの結果を見るとほとんどの生徒が辞書の使い方はわかっていると答えているが、それは意味不明の単語を alphabetical order に配列された辞書の中に見付け、(うまくいって)いくつかの訳語を探しあてることができるということまでである。彼らは辞書の中の他の有益な記述、例えば「日英比較」や「語法」などの補足的説明、にはあまり目を向けていない。辞書の巻頭にある「使い方」をよく読めば、自分の持っている辞書を最大限に利用できようが、「使い方」を読んでいる者はまずいないようである。また、授業で「辞書の使い方」を生徒たちによくわかるように解説したことがないのも事実である。そうすると、まず、辞書を使う際の基本的な約束事を知る(教える)ことが、自分の辞書を効果的に使うための第一歩であることになる。<sup>6</sup>

そこで「英和辞典の使い方」のプリントを作り、これを使って本校の中3生徒に対して、4月から6月にかけて週1回、計11回に渡り、辞書指導を行った。<sup>7</sup> 指導のねらいは次の4点である。

1. 辞書の仕組みを理解させる。
2. 辞書からどういう情報が得られるかを理解させる。
3. 求めたい情報をどう探したらよいかを理解させる。
4. 辞書を使って自分自身で学ぶ習慣を身につけさせる。

#### 3. 1. プリント教材の骨子とそのねらい

プリント教材の骨子とそのねらいを列挙する。<sup>8</sup>

##### I. 英和辞典を開いてみよう

ねらい：辞書の仕組みを大づかみさせる。

- 1) どのような情報が記されているのか。
- 2) アルファベットはきちんと書けるか。
- 3) 語を alphabetical order に配列できるか。

## II. 辞典各部の働き

ねらい：辞典各部の働きを理解させ、必要な情報を読みとれるようにする。

### 1. 重要語の表示

- 1) 自分の辞書での重要語の表示はどのようになっているか。

### 2. 音節

- 1) 音節とは何か。表記はどうなっているか。
- 2) 分節とは何か。
- 3) 音節と分節はどう有用なのか。

### 3. 発音記号・アクセント記号

- 1) これらの記号はどこにどう表記されているか。
- 2) 発音記号は読めるか。
- 3) アクセント記号に従って正しくアクセントを置いた発音ができるか。

### 4. 品詞

- 1) 8品詞とは何か。
- 2) それらの表記はどのようなものか。
- 3) 文の中での働きはどうなっているか。
- 4) 文中での働きによりひとつの語がいくつかの品詞になることがわかるか。

### 5. 語形の変化

- 1) 名詞では単数形が見出し語となっているが複数形はどこにどう表記されているか。
- 2) 複数形の語尾変化は理解できているか。
- 3) 動詞の変化形はどこにどう表記されているか。
- 4) 規則動詞の語尾変化は理解できているか。
- 5) 不規則動詞の場合は変化した形も見出し語にあることがわかるか。
- 6) 不規則動詞の活用表はどう利用したらよいか。
- 7) 形容詞と副詞の比較級・最上級はどこにどう表記されているか。
- 8) 不規則に変化する形容詞と副詞ではその変化形も見出し語となっていることがわかるか。
- 9) more, most をつけて比較級・最上級を作る形容詞と副詞の理解はできているか。

### 6. 可算名詞と不可算名詞

- 1) 可算・不可算とはどういうことか。
- 2) この区別をするための表記はどこにどうあるのか。

### 7. 接頭辞と接尾辞

- 1) 接頭辞・接尾辞とはどういうものか。
- 2) 接頭辞・接尾辞をつけて派生語を作る練習を通して理解を深める。

### 8. 類義語と反意語

- 1) 類義語・反意語とはどういうものか。
- 2) どこにどう表記されているのか。

### 9. 句動詞と成句

- 1) 句動詞とはどういうものか。
- 2) 成句とはどういうものか。
- 3) これらはどこにどう表記されているか。

## 3. 2. 辞書指導メモより

毎回の指導後のメモを読むと生徒の取り組み方や以外な事実、そして教材を進めたペースや指導の工夫などをうかがい知ることができる。簡条書き程度に述べることにする。

#### 第1回（4月12日）

- preアンケートを行なう。
- 「英和辞典の使い方」は毎月曜日に実施することを伝える。
- 自分の辞書（家においてあるもの）の名前がわからない生徒が各クラス10名位ずついる。これらの生徒には『英語辞書の使い方・選び方』小島義郎著（実日新書）の「第2部英語辞書カタログ」を見せ、自分の辞書を探させた。これはアンケートに答えさせる際役立った。
- プリント教材の1の問題2までを宿題とする。

#### 第2回（4月18日）

- 宿題をやったかどうかのチェックはプリントを机上に広げさせて一人ずつ行なった。宿題を出したら必ずチェックすることが大切。
- アルファベットの成り立ちについて『I・SEE・ALL』（学研）を用いてプリントを作り簡単に説明する。興味を引いた。
- Iの問題3まで。「英和辞典を開いてみよう」終了。

#### 第3回（4月25日）

- II. 辞典各部の働き3. 発音記号・アクセント記号の二重母音の練習まで。
- 発音記号を読み発音練習をする時に生徒がざわついた。これは日本語にない音、例えば [f], [v] や [r], [l] をおおげさにやった時であった。（君達のためにおおげさにやっているのだ！）
- 多少はざわついてもいいのだ。生徒が正しい音を出せるようになることが大切。

第4回（5月9日）

- 8品詞の3）形容詞まで。

第5回（5月16日）

- 8品詞終了。

○接続詞は語ばかりでなく句や節をもむすびつける話に興味を持つ。今まであまり注意を払ってきかなかったからであろうか。

○間投詞のところでは intonation の大切さを強調。また、Listening と Speaking のつながりを「正しい intonation で発音できない語は意味を持った語として聞こえてこない。つまり聞きとれない。」と話したところ生徒は熱心に聞いた。よく練習してほしいものである。

第6回（5月23日）

- 5. 語形の変化，問題9まで。

○修学旅行の後で生徒の疲れが目立つ。

○OEDを1冊だけ持って行って回覧させた。語の初出がいつでそれほどどこであったかがわかるとか、全部で13巻もある辞書だという話に驚いていた。

第7回（5月30日）

- 5. 語形の変化を終えた。

○辞書とプリントを忘れてくる生徒が各クラスとも4～5人位いる。

第8回（6月6日）

- 6. 可算名詞と不可算名詞まで（7. 接頭辞と接尾辞の問題は宿題）。

第9回（6月13日）

- 7. 接頭辞と接尾辞まで。

○成績のふるわない生徒で宿題をやってこない者が目立つ。わからないからやってこないのか。やってこないと益々わからなくなるのに。

○今春に発行された『ジーニアス英和辞典』（大修館）について授業時少し話をしたら、買い求めて持ってくる者がちらほらでてきた。

第10回（6月20日）

- 9. 句動詞・成句の頭出しをして終了。

○句動詞を整理するのに R. J. Dixon の *Essential Idioms in English* を紹介した。

第11回（6月27日）

○問14の成句を含んだ用例文は、調べてきたものを板書させてチェック。時間がかかった。まとめてプリントにする工夫があってもよかった。

- p o s t アンケートを実施。



### 3. 3. 「英和辞典の使い方」を終えて

辞書指導は2～3回で終了するようなものをやろうと考えていたが、プリントを作ってみると、とても短期では終わりそうもなくなっていることに気付いた。せっかく生徒もその気になっていることだし、途中で止めてしまっただけではいけないと考え、結局11回という長い指導を行った。最後まで生徒は興味を持ってついてきたかというところではなく、中にはうんざりしている者もいて、そういった生徒を眠らせないでいかに興味を持続させつつ指導していくかは大変であった。

生徒は私が毎回辞書を3冊ほど持ってくることに興味を示した。それもいつも同じものを3冊持っていくのではなく、異なったものを交えて毎回持っていったのである。何人かの生徒は「先生は辞書を何冊持っているの。」と質問してきた。また、辞書指導中にライトハウス（研究社）がよく出てきたもので、生徒たちはこの辞書と私とを強く結びつけて、私が「ライトハウスのここを見るとだね…」と始めると「おっ、ライトハウスだ。」という声が必要返ってきた。そして実施回数に比例して、この辞書の所有者が少しずつ増えるという事態になったのである。指導中に扱った辞書の中でその目立った特徴に触れたものは、生徒にかなりの影響を与えるようである。これはジーニアス（大修館）についても同じである（指導メモの第9回を参照のこと）。

中3の生徒たちは5月中下旬に修学旅行を行なったが、その直前の授業では「先生は旅行についてくるそうですが、辞書は持っていくのですか。」と冗談半分で質問する生徒まで現われた。とにかく、私を見ると「辞書」という連想がわくほど、強い影響を与えたことだけは確かである。

また、この指導中に、「先生、二冊目の辞書を買おうと考えてるんですけど、どの辞書がいいですか。」という質問を、10人近い生徒からももらった。彼らにとっては、この辞書指導が新しい辞書を求めるきっかけになったのかも知れない。

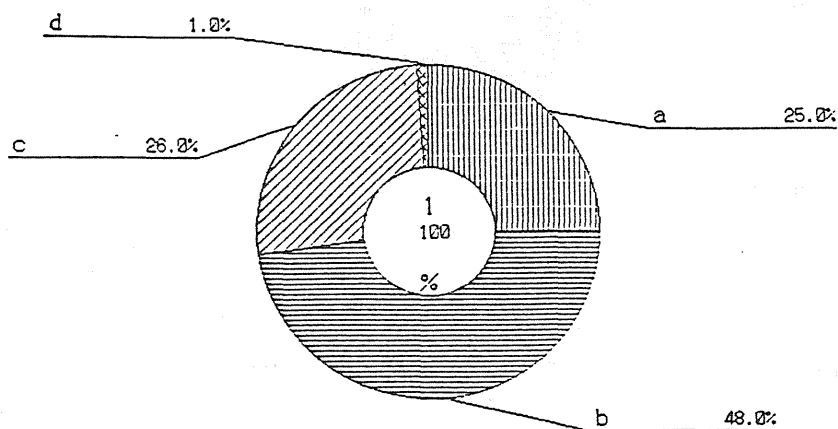
さて、生徒がこの辞書指導にどのような評価を下したのかを「postアンケート」の結果から見てみよう。

#### 4. 「postアンケート」による考察——生徒が下した評価——<sup>9</sup>

これまで11回にわたり英和辞典の使い方を学んできました。授業で習ったことを生かして、君達一人一人が今後の英語学習に辞書を有効に使っていくように望みます。今日は次のアンケートに答えてください。

1. 辞書指導受講前と比べて、君は英和辞典に興味を持てるようになりましたか。

- a. なった。    b. 少しはなった。    c. 前と変わらない。    d. 興味が失せた。

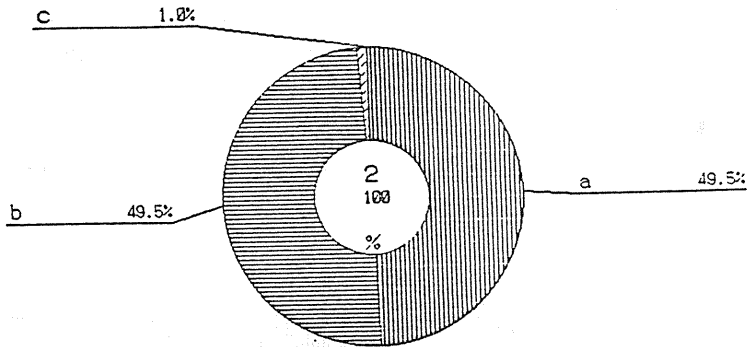


「少しはなった」も入れると、この辞書指導を受けて、7割強の生徒が英和辞典に興味を持つようになったと答えている。なにごとにつけ、興味を持つことから始まることを考えた場合、この辞書指導が興味付けをするのに役立ったことは評価できることであると思う。しかし、「前と変わらない」つまりこの指導によって特に英和辞典に興味を持てるようになったとは言えない、と答えた生徒が26%いることは見逃せない。この生徒たちにはどうして興味付けができなかったのか、さらにアンケートを取るなりして考察する必要がある。また、「興味が失せた」と答えた1%の生徒には、個人面接をするなりしてその原因を明らかにし、指導のあり方を分析し再構築しなくてはなるまい。

さて、英和辞典に興味を持った生徒たちは、以前と比べて辞書をよく引くようになったであろうか。

2. 辞書指導受講前と比べて、君は英和辞典をよく引くようになりましたか。

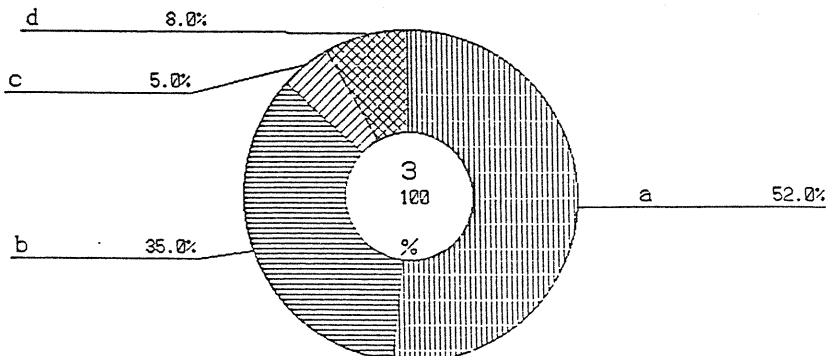
- a. なった。    b. 前と変わらない。    c. あまり引かなくなった。



円グラフを見てわかるように、「よく引くようになった」と答えた生徒と、「前と変わらない」と答えた生徒が半々であった。興味を持ったわりに、以前と変わらない生徒がこれほど多いのはどうしてであろうか。ひとつには今使っている教材の難易度の問題があろう。<sup>10</sup>辞書を使うほどのものではないということなのかもしれない。しかし、表面的な意味をとらえられたとしても、それで辞書を引かなくてよいという理由にはならない。中学の教科書に出てくる、いわゆる「基本語」には多義語が多い。これらは何度も辞書で引いて、その使い方を確認しながら学習してこそ、始めて自分のものとなっていくのである。このことを、教科書を使った授業でよく指導していくことが、これからの課題となる。また、「前と変わらない」と答えた生徒の中には、指導前からよく辞書を引いていた生徒がいたかもしれないが、その辺りのことはこのアンケート結果からは分析できない。中には興味は持っても、ただそれだけで実行を伴わない生徒がいるが、こういった生徒には普通の授業で辞書を引かせ、粘り強く指導していく必要がある。

3. 辞書指導受講中このような指導は必要だと思いましたか。

- a. 思った。    b. 思ったが期間が長すぎた。    c. 思わなかった。  
d. その他 ( )



今回行ったような辞書指導の必要性を9割弱の生徒が認めている。やはり、彼らは辞書の巻頭にある「使い方」をよく読んで使ってはいなかったのである。いや、読んだ者はいたかもしれないが、よく理解されてはいなかったと思われる。ところで、必要性を認めた生徒の中で多くの者(35%)が「期間が長すぎた」と答えているところに注意したい。半分位の回数、つまり5～6回が適当なのかもしれない。今回作成し使った教材を分析して、より短い期間で能率よく指導できるものに改良していく必要があるだろう。

4. 辞書指導を受けて具体的にどんな点が自分のためになりましたか。

- 品詞、発音記号、自動詞・他動詞や可算・不可算の表記に注意するようになり、反意語・同意語、類義語、成句、句動詞、語法関に注意が向くようになった。(36名)
- 辞書が単語の意味ばかりでなく他の色々な情報を与えてくれることがわかり、それらをよく読むようになった。(23名)
- 辞書の仕組み、使い方がわかり興味が出てきたので、よく引くようになった。(24名)
- 用例文の大切さがわかり、目がいくようになった。(14名)
- いろいろな辞書があることがわかり、自分の辞書の欠点(のってない事柄があるなど)がつかめた。また、良い辞書とはどういうものかがわかり、今後辞書を買求める際の参考になった。(12名)
- 接頭辞・接尾辞を用いて派生語を作るところが役に立った。(11名)
- 辞書が早く引けるようになった。(7名)
- 語彙が増えた。(1名)
- 英英辞典の使い方やってほしい。(1名)
- 肉体的、精神的に疲れた。(1名)
- 1年生の最初にやるべきではないか。(1名)
- ためにならなかった。(1名)

アンケート結果を見ると、今回の辞書指導のねらいの1から3までは、ほぼ達成できたのではないかと思う。ねらいの4については、指導後「とくに辞書をよく引くようになったとは言えない」と答えた生徒が多くいた2番の結果も考え合わせると、多くを今後の指導にゆだね、その結果を待たねばならない。しかし、辞書の仕組みや基本的な約束事がわかったことは、生徒にとって、自分はどこにもどって何を調べればよいかの行き所が手に入ったことになろう。つまり、彼らにとって探したい情報を手に入れるのにどういう戦略をとればよいかがわかったことは、自己学習をするうえで大きな財産になったものと思う。

次に4.の項目に対する7名の生徒の意見を原文のまま紹介するので参考にさせていただきたい。

「今までよく引いたのだが、今から考えるとわからないのにやたらと引いていたようだ。辞書を引いて、書いてある内容が随分わかるようになった。これからも辞書をたくさんひいて語義をふやそうという気が

わいた。(C組S. T. 君)」

「昔は単語の訳や発音を主に見ている、他の必要な情報を見逃していたような気がした。類義語や反義語、派生語を覚えると単語数が多くなるし、語法のところを見ると使い方がよくわかるようになった。句動詞も覚えられるようになった。(C組T. S. 君)」

「今までは、辞書で意味しか調べていなかったのですが、辞書を引くのはめんどくさいと思っていたが、辞書の引き方をくわしくわかってからは、辞書に興味が出てきた。和英もよく引くようになった。(A組K. S. 君)」

「辞書にはいろいろな情報がぎっしりつまっていることが分かった。今まで僕はこの内の限定された情報しか活用してなかったので、これからは辞書の情報をフルに利用して、辞書とうまくつきあっていきたい。(C組H. U. 君)」

「今まで辞書を引いてもわからないところが中辞典に多くあり、和訳しかみなかったが辞書指導によって他の情報も得られるようになった。また接頭辞・接尾辞が少しわかるようになった。(A組H. T. 君)」

「前は人に聞いていたが、辞書を使って調べるようになった。それにつれて、英語の予習も、前はやっていなかったが、やるようになった。辞書のいい悪いがわかった。(B組T. O. 君)」

「1つの単語に複数の品詞があり、いろいろな意味があることを知り、又、派生語も知って英語の世界が広がったこと。又、句動詞、成句をもっと勉強すれば、英語がもっと身近なものに感じられるのではないかという希望がわいたこと。(B組K. O. 君)」

## 5. おわりに

この指導を考えた時に筆者の胸中にあったものが何であったかということ、生徒が英語を勉強していて問題にぶつかった時に、自分で辞書を引き、調べ、考えて解決する姿勢を身につけてほしい、ということであった。<sup>11</sup>ある問題を解決するにはそれなりの手順を踏むことが必要である。これはなかなか面倒なことである。しかし、一足飛びに結論へ至ることはできない。よもやできたとしても、あまりに短絡な結論でしかないことが多い。要は、結論をそう急がないで、それに至る過程でひとつひとつの事実を分析し統合していく作業を辛抱強く行う忍耐力を身につけることである。それには強い意志力が必要だし、時間がかかる。しかし、やるだけの価値があるものである。生徒にここの所を辞書を引く作業を通して教えなければならない。教師は生徒に答を容

易に与えたりせずに、生徒がそれを探して四苦八苦している間、我慢強く待つことが大切であろう。

筆者の大学院時代のある恩師は「英語は外国語である。用心してかからなくていけない。」と言われた。つまり、外国語である英語の表層だけを見て「ああ、こういうことだな。」では真の理解を得られず、往々にして誤った判断を下してしまう。だから、いつも辞書をそばに置き、わかりきったようなことでも、ちょっと調べてみる労をいとわないようにと、教えられたのだと思う。筆者の生徒たちにも、辞書を友とし師として、辞書と対話しながら英語学習を進めていく姿勢を学ばせたいものだと思う。

#### 注

1. 大学生の辞書離れについて玉川大学の渡辺（「お節的な辞書談義」, VIEPOINT, 1988, p. 1）は「…で、近ごろ、教室で困っていることは、学生の多くが辞典を用意しないこと。そればかりか、辞典を引く気力も能力も低下していることだ。…辞書編集法が長足の進歩を遂げた今日、利用者たる大学生たちの辞書離れの現状を思うとぞっとするのだ。」と嘆いている。
2. p r e アンケート 5-4 及び 5-6 の結果を参照のこと。
3. このことに関して早川（「高校3年間の辞書指導」, 『現代英語教育』1987年5月号 p. 18）は「…しかし、教師自身が辞書指導には消極的に見えます。特に、普通科高校の先生方のなかには「辞書の引きかたなど、自然に覚える」と信じて疑わない方も多くみえます。確かに、私たち教師が高校生の時代には、辞書の引き方など教わりませんでした。中学校ですでに辞書をかなり使いこんでいたからです。」と述べている。
4. 吉川（「中学生向け英和辞典の整理学」, 『現代英語教育』1988年5月号, p. 45）は「…しかし、用例なしでは、やはり不十分の場合が多く、語義・語法上の解説の一部として生きているものであれば、数以上の効果を発揮する。」と用例文の必要性を述べている。
5. 吉川（「中学生向け英和辞典の整理学」, 『現代英語教育』1988年6月号, p. 44）も「…よく調べてくる生徒でも、辞書の1番目かせいぜい2番目くらいまでの単語の語義にとどまるのではなかろうか。そういう時にも、もう一步の所を教室で辞書を使って教えて欲しいと思うのである。」と述べている。
6. 吉川（「中学生向け英和辞典の整理学」, 『現代英語教育』1988年1月号, p. 24）は辞書の約束事を知らない大学生について「…しかし、辞書を引くことも知らずに大学生になったと思える学生がいることも知っていただきたい。アルファベットの順序もよく知らないのではと嘆いたある大学の英語の先生を知っている。大学生を基準にして論ずるのはいけないことかも知れないが、辞書を引くのも遅く、かつ不正確であり、辞書の約束事も知らない大学生が実に多い。」と述べている。

なお、辞書の「効果的な使い方」の解釈は分かれるところである。意味がわからない語句に

出会った時、それを辞書ですぐに調べないで、まず文脈からその語句の意味を推察する。そうして得た意味を確かめるために辞書を引くといった場合もある。この意味での辞書の「効果的な使い方」の指導は教科書を読んでいく授業の中で断続して行われるべきものである。

7. このプリントを作るにあたっては、小冊子『グローバル英和辞典引き方ワークブック』（三省堂）を参考とした。また、この小冊子も含めて、『ライトハウス英和辞典』（研究社）、『英語の辞書指導——「ライトハウス英和辞典」を使って——』（八幡成人著、研究社）より一部そのまま引用し使用した。
8. 教材内容は資料「英和辞典の使い方」を参照のこと。
9. 中3全クラスで123名が答えた。なお、中3は3クラスあり全員で125名いる。
10. 教科書は NEW CROWN ENGLISH SERIES 3（三省堂）を使用している。なお、巻末には「単語の意味」がついていて、ここを見れば新出語等の意味がわかるようになっている。このことも生徒が辞書を引かない原因になっているのではないかと思われる。
11. 吉川（「中学生向け英和辞典の整理学、『現代英語教育』1988年1月号、p.24）も、「…、また試行錯誤の中から知識を選択し整理していく自助性を辞書を通して育てていくことも必要ではないだろうか。」と述べている。

#### （参考文献）

1. 早川 勇（1987）「高校3年間の辞書指導」『現代英語教育』研究社、1987年5月号、pp. 18-22。
2. 松畑熙一（1986）「楽しく・わかる・生き生き授業12講（9）辞書指導——辞書力診断テストを活用して」『現代英語教育』研究社、1986年12月号、pp. 40-41。
3. 八幡成人（1984）『英語の辞書指導——『ライトハウス英和辞典』を使って——』研究社。
4. 吉川道夫（1988）「中学生向け英和辞典の整理学」『現代英語教育』研究社、1988年1月号より同年6月号までに連載。
5. 渡辺秀雄（1988）「お節介な辞書談義」『VIEWPOINT For English Teachers』研究社、1988 Autumn No.1。
6. 竹林 滋，小島義郎編 『ライトハウス英和辞典』 研究社， 1985年第14刷。
7. 三省堂外国語辞書出版部 『グローバル英和辞典新装版引き方ワークブック』三省堂。

英和辞書の使いかた

問題1 アルファベットを書きなさい。

大文字:

--

(楷書体)

小文字:

--

(楷書体)

1. 英和辞典を開いてみよう

君達にあげたのは、ライトハウス英和辞典(研究社)の一部です。吹き出しのところに下記の言葉を入れ、辞書の仕組みを理解しよう。

- \*ページ            \*案内語            \*見出し語            \*訳語            \*反意語
- \*略語(が見出し語)            \*固有名詞(が見出し語)            \*語法
- \*挿絵            \*参考            \*動詞の変化形と発音            \*重畳語の表示
- \*動詞型            \*句動詞            \*類義語            \*つめ            \*音節の区別
- り(綴り字の切れ目)            \*品詞(を示す)            \*可算名詞
- \*不可算名詞            \*発音記号            \*アクセント記号            \*複数
- 形と発音            \*見出し語の入った例文            \*米(アメリカ)発音

\*宛名の書き方            \*日英比較            \*語義の展開と要約

(網掛けのものはこの辞書特有の役に立つ情報)

(資料) 教材「英和辞典の使い方」

問題2 次の各群の語を辞典に出ている順に並べなさい。

- (1) camel, crow, children            (2) goat, goose, goldfish
- (3) leg, dragon, deer            (4) nothing, newspaper, noise

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

問題3 次の各群の語を辞典に出ている順に並べると正しい英文になる。

- (1) people, lift, elevators            (2) eat, chickens, grain
- (3) net, cats, getting, all, dislike





(1)	
(2)	
(3)	

(例) Which do you like to play, volleyball or basketball?  
ball?

問題4 次の語に(・)を入れて分節をしなさい。

- (1)violin (2)camera (3)musician (4)supermarket  
(5)Wednesday

(1)		(2)	
(3)		(4)	
(5)			

## II. 辞典各部の働き

### 1. 重要語の表示

たいていの辞書では、見出し語の前に星印(★)をつけて、特に重要な語であることを示している。ライトハウスでは、星印4つは1000語レベル(中学用基本語)、星印3つは2000語レベル(高校用基本語)、星印2つは4000語レベル、星印1つは6000語レベルを示す。君の辞書ではどうなっているか調べなさい。

### 2. 音節

音節とは、1つの母音を中心にした音のかたまりのこと。音節ごとに(・)を入れて、綴りの句切りを示すことを分節という。

(例) bas・ket・ball

文を書いているときに、余白がなくなり、単語をききって次の行に移るときは、この音節で区切ってハイフン(-)を付け、次の行は残りの部分から書く。

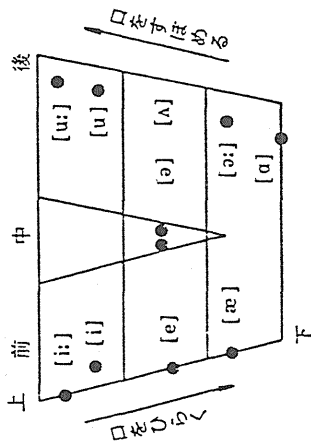
### 3. 発音記号・アクセント記号

見出し語の後の[ ]にその語の発音が発音記号で示され、米音と英音の違いがある場合には、/ か | で区切り、多くの英和辞典で米音を先に示してある。

(例) cat[kæt/kæ:] (グローバル) [kə'gɔ:l] (ライトハウス)

英語の発音は日本語の発音と違うので、カタを使って英語の発音を表さない。そこで発音記号を使用することになる。米音、英音の違いをあまり気にしないで、先生の発音に発音記号を結び付けて覚えることが大切だ。英語の発音は大きく分けると、母音と子音に分けられる。

母音：日本語のアイウエオに相当する語で、音が口の中でさえぎられな  
いで出る。発音するときの舌の位置と唇の丸め方によって音質が変わる。  
次の母音表（舌の位置を示す）を参考にし、説明を読んで練習しなさい。



母音表

[i:] : イーに似ている。くちびるを左右に少しひく。 eat, meat  
 [i] : イとエの中間音。エというつもりでイという。 big, busy  
 [e] : エに似ている。舌先の位置は下前歯の裏にくる。 bed, many  
 [æ] : エとアの中間音。くちびるを左右にひく。 hat, man  
 [ɑ:] : 口を大きく開いてアーと声を出す。 father, calm  
 [ɑ/ɔ] : 大きく口を開き、口の奥から声を出す。(米)では [ɑ:] よりやや短かめにア、(英)ではそれよりくちびるを少しまめるめてオ。

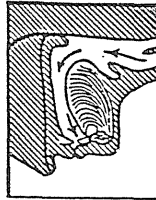
[ɔ:] : 大きく開いた口をまるめてオーと声を出す。 top, box  
 [u] : 口をすぼめて、ウより少しくちびるを丸めて発音。 small, tall  
 [u:] : [u] よりもっと口をすぼめ前に出し長く発音。 school, two  
 [ʌ] : 口をあまり開かず、軽くアと発音。 bus, cup  
 [ə] : 口をわずかに開き、口全体の力をぬき弱くあいまいに発音。 ago, today

[ɜr] : 舌先をもち上げ、口の奥へそらし巻き舌の状態にしてアーと発音。  
girl, world

[ər] : [ɜr] を弱く短かめに発音。  
over, doctor  
 二重母音：1つの母音から他の母音へ移動する音で、1つの音のように発音します。初めの母音を強く長めに、2番目の母音は弱く発音するのがコツです。

[ei] : day, break [ai] : ice, buy  
 [ɔi] : toy, oil [au] : how, out  
 [ou] : boat, old [ɪr/ɪə] : here, ear  
 [ɜr/ɜə] : air, bear [ɑr/ɑ:] : car, are  
 [ɜr/ʊə] : floor, war [ʊr/ʊə] : poor, tour  
 母音のあとの [r] は米音特有の音声で、この音に先立つ母音から、舌先を口の奥へそらすようにして出す、こもったような音です。  
 子音：くちびる、歯ぐき、舌などで強く息をさえぎって出す音です。

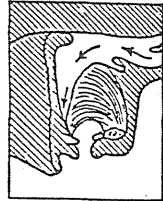
以下の図はロンドン大学教授 A. C. Gimson: An Introduction to the Pronunciation of English (Edward Arnold 1980<sup>3</sup>) による。



[p] [b] : くちびるをあわせ、急に閉き発音する。息を出すと [p] で、声を出すと [b] になる。 pen, cap, book, bus

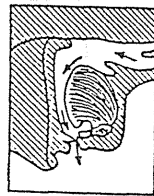
[t] [d] : 舌先を歯の裏につけ、息を止め、急に出すと [t]、声を出すと [d]。ト、ドにならないよう。

[k] [g] : 舌の後方を上の口の奥につけ、息を止め急に出すと [k]、声を出すと [g] になる。

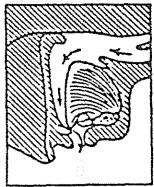


[f] [v] : 上の歯で下くちびるを軽くかみ, そのすき間から, 息を出すように強く出すと [f], 声を出す [v]。

[θ] [ð] : 舌先を上歯と下歯の間に軽くはさむようにし, 息を出す [θ], 声を出す [ð]。



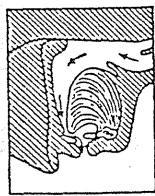
[f] [v]  
father  
very



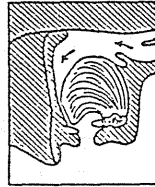
[θ] [ð]  
three  
think  
this  
brother

[s] [z] : 舌先を上歯の裏におき, その間をこするよう息を出す [s], 声を出す [z]。

[ʃ] [ʒ] : 舌先を歯ぐきにつけず, 舌と歯ぐきの間から, シーと発音すると [ʃ], 声を出す [ʒ]。



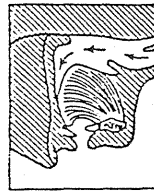
[s] [z]  
sun  
nice  
zoo  
nose



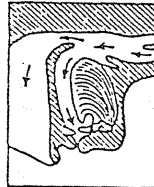
[ʃ] [ʒ]  
ship  
she  
vision  
usually

[t] [dʒ] : 舌先を歯ぐきの付け根のところ当て, こするよう息を出す [t], 声を出す [dʒ]。

[m] : 上下のくちびるを閉じたまま発音。



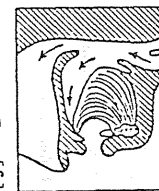
[t] [dʒ]  
chair  
watch  
joy  
jump



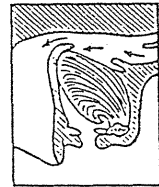
[m]  
man  
room

[n] : 舌先を上歯の裏につけたまま鼻から息を出す。

[ŋ] : 舌の後部を口の裏の上につけたまま鼻から息を出す。



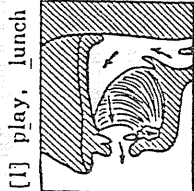
[n]  
pen  
open



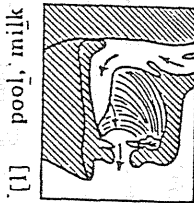
[ŋ]  
sing

[l] : 舌先を上歯の裏にあてたまま声を出す。

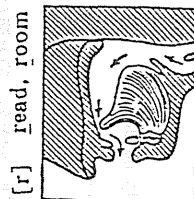
[r] : 舌先を歯ぐきのほうへ持ち上げ, 奥へ少し丸めるようにして, 舌先が歯ぐきにふれぬようにして, そのすき間から, ルと発音する。



[l]  
play, lunch



[r]  
pool, milk



[r]  
read, room

[h] : どの奥から息を出して発音する。

who, hat

[j] : 舌を上あごに近づけて, こするよう発音する。

year, yes

[w] : 口をすぼめ, 突き出して発音する。

we, winter

### 問題 5

下線部に注意して, 発音記号を調べ発音しなさい。

- (1) field, speak, people, sheep (2) desk, friend, instead

アクセント : 発音記号についている ( ' ) じるしがアクセント記号です。1語にアクセントが2つ以上あり, その強さに差がある場合には, 強いアクセント (第1アクセント) は ( ' ) で, 弱いアクセント (第2アクセント) は ( ` ) で示されています。アクセントのある音節の母音の上に記号をつけています。

例) af·ter·noon [æftərnu:n]

### 問題 6

次の語の発音記号にアクセント記号 ( ' ) をつけなさい。

- (1) dis·cov·er [diskavər]  
(2) num·ber [nʌmbər]  
(3) some·times [sʌmtaɪmz]

4. 品詞

すべての単語は、文中での働きによって8つの役目に分けられる。それを8品詞という。

1) 名詞(noun) = [名] n. : 人や動物、事物の名前を表す語。

The family live to the north of Tokyo.

(その一家は東京の北の方に住んでいる)

2) 代名詞(pronoun) = [代] pron. : 名詞の代わりに用いられる語。

The man told us we could park our car here.

(その人は私たちにここには駐車ができると言った)

3) 形容詞(adjective) = [形] adj. : 名詞を修飾して、その性質や状態を表す語。定冠詞(definite article / the)、不定冠詞(indefinite article / a, an)、は名詞につくのが原則なので形容詞に含まれる。グロバーバルやライトハウスなどは、《定冠詞》、《不定冠詞》と示されている。

I love the blue skies and the green grass.

(私は青い空と緑の草が好きだ)

He was familiar with many famous men.

(彼は多くの名士と親しかった)

4) 動詞(verb) = [動] v. : 動作や状態を表す語。目的語を持つ他動詞(transitive verb) [他 v.t.] と、目的語を持たない自動詞

(彼は夕食のあと歌ったり踊ったりした)

(intransitive verb) [自 v.i.] に分かれる。この違いは文型を作るもとのため大切だ。動詞を助ける働きは助動詞(auxiliary verb)

[助] auxiliary v.] も、この中にはいる。

Then we came to a beautiful valley.

[自]

(それから美しい谷にさしかかった)

Both can answer all the questions.

[助 他]

(ボブはこの問題すべてに答えられる)

5) 副詞(adverb) = [副] adv. : 動詞や形容詞、または他の副詞を修飾する語。

There were very few passengers in the train.

(その列車には乗客はほんのわずかしか乗っていなかった)

6) 前置詞(preposition) = [前置] prep. : 名詞や代名詞の前に置かれて、他の語とのつながりを示す語。


The plane stopped at Paris on the way to London.

(飛行機はロンドンへの途中パリに立ち寄った)

7) 接続詞(conjunction) = [接] conj. : 語と語、句と句、節と節などを結びつける語。

They sang and danced after dinner.

(彼らは夕食のあと歌ったり踊ったりした)

8) 間投詞 (感嘆詞) (interjection) =  interj. : 驚き、喜び、悲しみなどの感情を表す語。

Oh! how awful!

(まあ、ひどい！)

問題7 次の語の品詞を調べなさい。

- (1) danger (2) marry (3) strange

1	2	3
---	---	---

ある語は、文中の働きにより、違った品詞になる。つまり、1語がいくつかの働きをするわけだ。次の問題をやり、確認しなさい。

問題8 次の語はいくつの品詞の働きがあるか確かめなさい。品詞ごとに意味も書きなさい。

- (1) charm (2) home (3) wrong

1
---

2	
3	

### 5. 語形の変化

1) 名詞には、単数形 (singular: 略は sing.) と複数形 (plural: 略は pl.) があるが、見出し語は単数形で出ているのが普通。複数形は品詞の後に ( ) に入って出てくる。

問題9 次の名詞の複数形を確かめなさい。

- (1) box (2) lady (3) potato (4) knife (5) tooth (6) child  
(7) deer (8) story

(1)		(2)	
(3)		(4)	

(5)	(6)
(7)	(8)

2) 動詞は、文中でいろいろな形に変化する。グローバルやライトハウスには(三単現；過去形；過去分詞形)の順序で出ている。しかし、プログレッシブには三単現が出ていない。過去形と過去分詞形が同じ場合には1つだけ示してある。グローバルとプログレッシブには fail→fails; failed; falling のように原形に s を付けて過去・過去分詞形、ing を付けて現在分詞を作るものは示していない。しかし、ライトハウスにはいずれの場合も示されている。次の動詞は君の辞書ではどの様に示されているか。調べなさい。

drop	
study	
live	
crash	

swim, make, go などのように、過去・過去分詞形が不規則に変化するものは、その変化した形も見出し語に出ている。君の辞書で確かめなさい。

問題 10 次の動詞の活用を調べなさい。

(1) carry (2) forget (3) write (4) buy

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

たいていの辞書の巻末には不規則動詞の活用表が載っているのを利用してしよう。

3) 形容詞、副詞には比較変化がある。もともとの形を原級といい、それが見出し語になっている。辞書には比較級；最上級が示されている。次の語についてはどのように示されているか調べなさい。

warm		wide
fat		pretty

形容詞や副詞にも good, well などのように不規則に変化するものがある。これらのものは、それぞれの変化形も見出し語として出ている。

問題 1 1 次の語の比較変化を調べてみなさい。

- (1) easy (2) hot (3) bad (4) well (5) fine

(1)	(2)	
(3)	(4)	
(5)		

なお、形容詞と副詞には、2音節のあるものと3音節以上のものは、原級を  
変えずに more, most をつけて比較級と最上級を表すものがある。happy も  
famous も2音節だが、famous の方は more, most をつける。また beauti-  
ful は3音節なので、~er, ~est は付けられない。辞書で more, most を引い  
てみよう。

6. 可算名詞と不可算名詞

名詞の示すものには、1つ2つと数えられるものと、数えられないもの  
がある。これをそれぞれ可算名詞 (countable / C で表示)、不可算名詞  
(uncountable / U で表示) と呼ぶ。

次の説明はライトハウスのものである。参考にしなさい。

countable (数えられる名詞、可算名詞) 名詞のなかで  
one, two, three など数語に不定冠詞 a, an のかき、また数形が用  
で、使って可数に不定冠詞 a, an のかき、また数形が用  
られるもの。単数名詞、集合体を1つのものと見た  
単行の集合名詞に属する。一方1つ2つと数えら  
ない名詞「数えられない名詞」または「不可算名詞」と呼ぶ。  
同一の語で意味によって数えられる名詞として扱われ  
また数えられない名詞として扱われる名詞がある。すなわ  
知々の具体的名詞というときには数えられる名詞であつても、  
抽象的なものを意味する場合には数えられない名詞となる。例  
は room は「部屋」の意味では数えられる名詞であるが、物  
入る「余地、余裕」という意味では数えられない名詞として扱  
られる。(例) この辞書で数えられる名詞は C で、数えら  
ない名詞は U で示し、さらに両方に入る名詞は U と  
示している。  
なにも以上は原則であつて、数えられる名詞でも上のよう  
な特例もあつて、無定詞の場合、two feet (二足) は数えら  
れる名詞で I can hop on one foot. (1足で飛びあつた  
かたまり) I walk and run on my two feet. (両足で  
歩いて走つた) のように使えるが、一方では次のよう  
な用法もある。Some people came on foot; others came  
by car. (歩いて来た人も車でも来た人もある) 同様に  
法は特例である。主に次記さつていふ方に見られる。この辞  
書では、このような表現は原則として扱ってはいない。

uncountable (数えられない名詞、不可算名詞) 名詞  
の中で、数えられない名詞、1つ2つと数えることのでき  
ず、使つて不定冠詞がつかず、数形も用いられないもの。例  
として、不可算名詞と可算名詞がこれに属する。これに別して1つ2つと  
数えられる名詞を「数えられる名詞」、または「可算名詞」と呼  
ぶ。  
数えられない名詞を何らかの単位で数える場合には次のよう  
な語句を用いる。  
two glasses of water コップに2杯の水 (three cups of  
coffee (tea) コーヒー(茶)3杯 (a lump of sugar 砂糖塊1  
塊 / a slice of bread パン1切れ / three sheets of paper  
紙3枚 / a cake of soap 石鹸1個 / a piece of advice

問題 1 2 次の名詞の C, U の違いを調べてみなさい。

- (1) country (2) sorrow (3) wood (4) beauty (5) chicken (6) invention

1	
2	
3	
4	
5	
6	



7. 接頭辞と接尾辞

ある語の初めに、あるいは末尾につけて、もとの語に意味を加えたり、内容を変えたりするものがある。例えば、happy に un- をつけると unhappy となり「幸せな」から「不幸せな」と変わる。また、kind 「親切な」に -ness をつけると kindness 「親切」となり、形容詞から名詞に変わる。このような un- を接頭辞、-ness を接尾辞という。これらをつけて出来た語を派生語という。君の辞書で un- と -ness を引いてみなさい。

次の接頭辞と接尾辞を研究し、各問題をやりなさい。

■ 名詞・形容詞から動詞を作る接頭辞・接尾辞

en	courage → encourage, length → lengthen
-ly	beauty → beautify, simple → simplify
-ize	modern → modernize, memory → memorize
-ate	formula → formulate

練習問題 45 次の語から動詞を作りなさい。

- (1) sympathy (2) terror (3) danger (4) apology  
(5) class

■ 形容詞から副詞を作る接尾辞

-ly	slow → slowly, easy → easily
-----	------------------------------

■ 形容詞から名詞を作る接尾辞

-ness	kind → kindness, dark → darkness
-ity, -ty	stupid → stupidity, cruel → cruelty

練習問題 46 次の語から名詞を作りなさい。

- (1) sick (2) similar (3) curious (4) necessary  
(5) friendly

■ 動詞から名詞を作る接尾辞

-tion	suggest → suggestion, examine → examination
-ment	move → movement, amaze → amazement
-ance	accept → acceptance, resist → resistance
-age	marry → marriage, carry → carriage
-al	arrive → arrival, refuse → refusal
-y	discover → discovery, deliver → delivery

練習問題 47 次の語から名詞を作りなさい。

- (1) pay (2) invent (3) propose (4) inquire  
(5) endure (6) use

■ 名詞から形容詞を作る接尾辞

-al	sensation → sensational, emotion → emotional
-ous	danger → dangerous, courage → courageous
-ic, -ical	atom → atomic, history → historical
-y	hair → hairy, dirt → dirty
-ful	pain → painful, care → careful
(反対は -less)	painless, careless
-ive	mass → massive, effect → effective
-ish	child → childish, fool → foolish
-ly	friend → friendly, ghost → ghostly

練習問題 48 次の語から形容詞を作りなさい。

- (1) fame (2) shame (3) origin (4) excess  
(5) scholar

■ 動詞から形容詞を作る接尾辞

-able	wash → washable, eat → eatable
-ible	reduce → reducible, convert → convertible

■ 反意語を作る接頭辞

un-	lucky → unlucky, comfortable → uncomfortable
in-	efficient → inefficient, dependent → independent
im-	possible → impossible, mortal → immortal
(b-, m-, p- で始まる語について)	legal → illegal, logical → illogical
(l- で始まる語について)	regular → irregular, responsible → irresponsible
(r- で始まる語について)	honest → dishonest, appear → disappear
dis-	sense → nonsense, professional → nonprofessional
non-	

練習問題 49 次の語の反意語を作りなさい。

- (1) visible (2) fortunate (3) approve (4) perfect  
(5) resident

8. 類義語と反意語

ある単語と同じような意味を持つ単語を類義語という。gain の類義語を辞書で調べなさい。どういうふうに記載されていますか。

また、large の反対は small で、これを反意語という。辞書ではふつう(⇔small)と示してある。似たような語の正確な意味や、反対の語を組み合わせて覚えておくと、文の理解だけでなく文を作る上でもとても便利である。

問題 13 次の語の類義語、反意語を調べなさい。

(1)high (類義語) (2)talk (類義語) (3)sharp (反意語) (4)buy (反意語)

1	
2	
3	
4	

9. 句動詞・成句

2つ以上の語がまとまって1語の動詞のような働きをするものを句動詞という。句動詞は動詞に down, off, up のような副詞や at, in, for, with のような前置詞が結びついて作られる。give を引き句動詞を調べなさい。

(giveを含む句動詞)

once upon a time (「昔々」)のように単語の意味を全部合わせたものはまるっきり違った意味になるとき、それを成句という。成句は用例の中で理解することが大切である。

問題 14 次の成句が使われている用例文を調べだし、その意味を確認しなさい。

- 1. look forward to
- 2. at any time
- 3. take care of
- 4. a good deal of
- 5. to one's surprise

1

辞書指導を受けて（アンケート）

これまで11回にわたり英和辞典の使い方を学んできました。授業で習ったことを生かして、君達一人一人が今後の英語学習に辞書を有効に使っていくように望みます。今日は次のアンケートに答えてください。

細	番	氏名
---	---	----

2	
3	
4	
5	

1. 辞書指導受講前と比べて、君は英和辞典に興味が持てるようになりましたか。  
 a. なった。 b. 少しはなった。 c. 前と変わらない。 d. 興味が失せた。
2. 辞書指導受講前と比べて、君は英和辞典をよく引くようになりましたか。  
 a. なった。 b. 前と変わらない。 c. あまり引かなくなりました。
3. 辞書指導受講中このような指導は必要だと思いましたが。  
 a. 思った。 b. 思ったが期間が長すぎた。 c. 思わなかった。  
 d. その他（ ）
4. 辞書指導を受けて具体的にどんな点が自分のためになりましたか。